

安心をすべての人に届けたい

公式ホームページ
http://sakuraisuguru.jp/



well-being 通信

北本市議会議員
桜井すぐる

well-being (ウェルビーイング): 幸福、健康で満たされた状態

第40号

1. 能登半島地震のその後・ボランティア参加報告 2. 新ごみ処理施設における災害(水害)対策

今年元日に発生した能登半島地震は震度7を記録し、能登半島北部を中心に甚大な被害が発生しました。現地で災害ボランティアとして活躍している方に、被災地のその後の状況をお聞きました。

災害復旧は遅れているのか？ 災害ボランティアは足りていないのか？

地震発生から4か月が経過しましたが、現地では全壊した建物が手付かずで残されており、復旧が遅れている印象があります。一方で主要道路は通行が可能となり、仮設住宅の建設も進んでいます。建設・土木業界で人手や資材の不足が深刻な中、優先順位を決め、徐々に復旧を進めている状況と言えるでしょう。

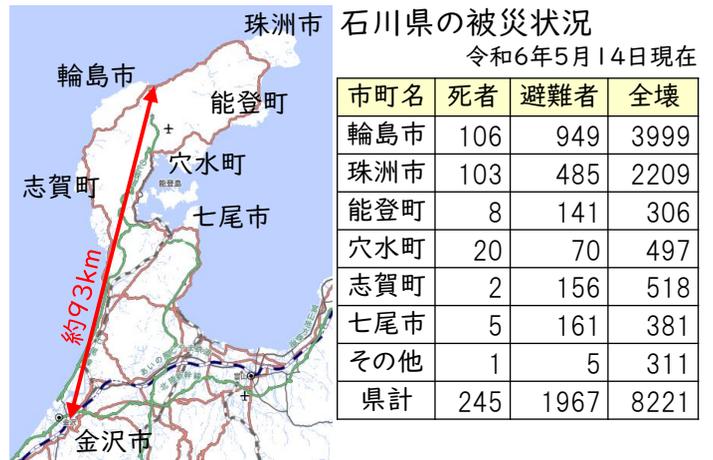
ボランティアに関しては「できるだけ能登に来ないで」というメッセージを發してきたことで、入るのが遅れた面が否めません。さらに、募集を県が一括管理しているため、機動性に欠けていたり、現地のニーズに合っていない面もあるようです。災害時に、国や県による管理志向が強くなる傾向がありますが、現場主体による臨機応変な対応とのバランスにも注意しなければなりません。

被災地でこれから必要となる支援は？ 片付けだけでなく福祉的な支援も必要に

全壊や半壊した住宅の片付けは危険を伴うため、ボランティアには困難です。専門業者やNPO、プロボノ(専門的なスキルを活かしたボランティア)に頼らざるを得ません。また、避難をしている高齢者や障がい者も多く、避難所から自宅に戻ったり仮設住宅に入居した後は、支援が減り、自立が求められます。孤立や災害関連死を防ぐためには、福祉的な支援も必要となります。能登町では、在宅避難者へは社会福祉協議会が、仮設住宅入居者には一般社団法人JOCA(青年海外協力協会)が生活支援を行うことになっているとのことです。

「防災」と言っても、地震を防ぐことはできない 発生を前提とした「災害準備」をしっかりと

北本市で発生する可能性がある大地震として、関東平野北西縁断層帯地震があります。発生確率は極めて低いとされているものの、ゼロではありません。発生時には北本市が被害の中心となり、市内で2割以上の住宅が全壊すると想定されています。油断せず、いつか大地震は発生するものとして準備をすることが重要です。特に、高齢者や障がい者、医療的ケアが必要な方の個別避難計画の策定、避難訓練の実施などを進める必要があります。令和3年には福祉避難所の確保・運営ガイドラインが改定されており、福祉避難所への直接避難の促進も明記されました。本市でも対応が急務です。



輪島市災害ボランティア参加報告

私は5月中旬に輪島市の災害ボランティアに参加してきました。金沢に前泊し、6時半にボランティア専用バスで出発。午前・午後各2時間活動し、19時に金沢に戻ってきました。当日の参加者は43人。6人1組となり、災害廃棄物の分別や搬出を行いました。参加者はリピーターが多く、皆さん手際よく行動していました。

被災地では、まだまだ多くの支援が必要です。都市部から遠く、十分な活動時間が取れないため、多くの案件を効率よく処理することが難しい現状です。北本市民の皆様にもボランティアへの参加や義援金・支援金の寄附をご検討いただければ幸いです。



(写真上)
ボランティア専用バスと
輪島市災害たすけあい
センター

(写真下)
被災したままの
輪島朝市周辺



災害ボランティアの参加方法

- ① ホームページからボランティア事前登録を行う。
- ② ほぼ毎週、活動依頼メールが届くので、メールに記載されたリンクから参加予約を行う。
- ③ 参加前に北本市社会福祉協議会でボランティア保険に加入する。

石川県災害ボランティア情報 →



新たなごみ処理施設における災害対応についての報告（検討委員会報告）

新ごみ処理施設の建設場所は鴻巣市郷地・安養寺地区に決定していますが、以前から洪水時の浸水が懸念されています。5月9日に開催された新たなごみ処理施設等建設検討委員会において具体的な浸水対策について検討したので、その内容を報告します。

内水氾濫規模では「浸水させない」 想定最大規模では「浸水しても機能は維持」

建設予定地周辺の小河川（元荒川、野通川、星川など）の氾濫では最大1.1mの浸水が想定されているため、内水氾濫としてはこの規模を想定し対策を講じます。内水氾濫は発生確率が高いため、この規模の氾濫では浸水しないよう、敷地全体に盛土を行います。前面の県道の高さが約1mですが、さらに余裕を見て県道よりも50cm高く盛土を行います（図1黄色）。

また、計画規模（発生確率が200年に一度）の降雨では、2.5～3.2m、想定最大規模（千年に一度、想定しうる最大規模）の降雨では3.4～3.75mの浸水が想定されています（図2）。想定最大規模でも敷地全体が浸水しないよう対策を講じると多額の費用が掛かるため、多少浸水しても施設の機能が維持されるよう対策を講じます。具体的には3.75mの浸水を想定し、ごみピットや発電機等の電気設備が浸水しないようにします（図1青色）。

想定最大規模に対する浸水対策は2パターン

想定最大規模に対する浸水対策は2パターン検討しています（図3）。図3上は建物立地エリア全体に盛土し（ピンク）、建物全体を浸水しないようにする方法。図3下は、盛土をせず、建物に浸水対策を施す方法です。浸水してはいけない部分を2階以上に造る、1階部分に防水シャッターを設置するなどが考えられます。

どちらにもメリット・デメリットがあり、現時点でどちらが優れているか判断するのは困難です。また、建物立地エリアに若干の盛土を施しつつ、施設そのものに浸水対策を講じる折衷案も考えられます。このため、現段階ではどちらか一つの方法に決定するのではなく、今後事業者に提案してもらい判断することとなりました。

避難所のための付加金は鴻巣市が費用負担を

新ごみ処理施設は、災害時の避難所となることが想定されています。しかし、多数の避難者（鴻巣市民）を受け入れられるよう施設や設備を充実させるのであれば、付加金の費用は鴻巣市が負担すべきです。

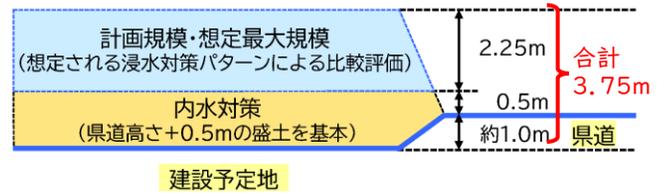
ごみ処理施設として必要な施設を造り、その範囲内で避難者を受け入れることを原則とすべきであることを意見として申し上げました。

今回、能登半島地震の災害ボランティアのお話しは、私が3か月に一度開催している「Voter's Cafe」で伺ったものです。どなたでもご参加いただけます。開催はX（旧Twitter）やLINEでお知らせしていますので、下のQRコードから登録してください。

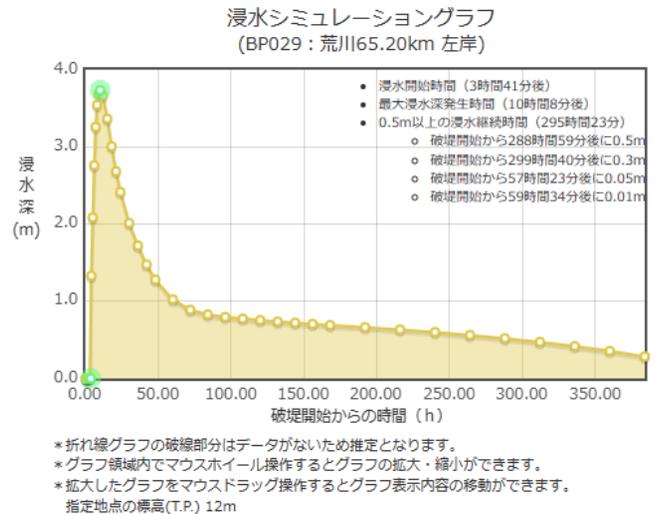
また、今回の通信で伝えきれなかったお話しの詳細、市議会・行政視察の報告、通信のバックナンバーは、私のホームページからご覧いただけます。



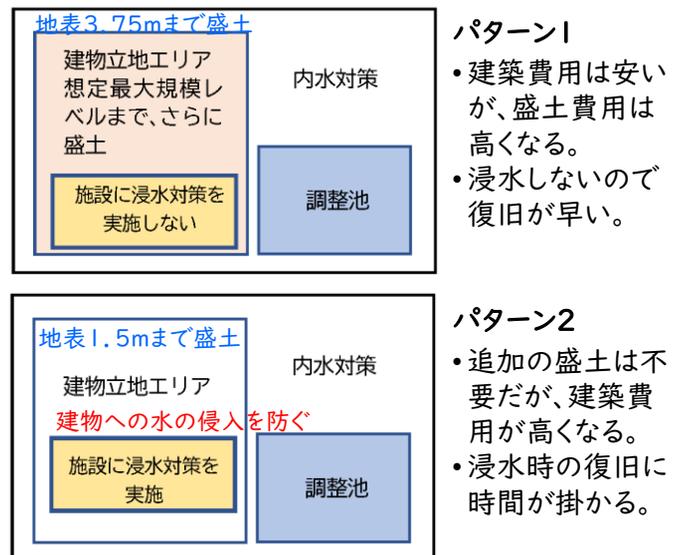
（図1）水害（浸水）対策に関する検討イメージ図



（図2）浸水シミュレーショングラフ（想定最大規模）



（図3）浸水対策のパターン比較（抜粋）



内水氾濫：大雨時に下水道や水路などの排水機能が追いつかずに浸水してしまうこと。今回の検討では、荒川・利根川の堤防の決壊や越水に起因しない氾濫を内水氾濫としています。

発行者：桜井すぐる後援会（代表：桜井卓）
住所：〒364-0034 北本市高尾1-166-6
元埼玉県職員。51歳。会派：緑風会 所属。
令和元年5月～北本市議会議員（現在2期目）
健康福祉常任委員会、埼玉中部環境保全組合、
新たなごみ処理施設等建設検討委員会委員

お困りごと、お気軽にご相談ください
090-9389-3572（桜井携帯）
sakuraisuguru.kitamoto@gmail.com